



特集

ロッテのサステナビリティ

—マテリアリティ抽出・整理と今後に向けた取り組み—

ロッテの考え方

ロッテは、創業以来一貫して、「ユーザーオリエンテッド」「オリジナリティ」「クオリティ」という3つのロッテバリューを全ての企業活動の基本としています。これらを掲げた企業理念のもと、お客様をはじめ、地域や社会に新たな価値を提供することで、成長し続けてきました。例えば、1997年発売のキシリトールガムは、「歯を丈夫で健康に保つ」という全く新しい価値を生み出し、社会に貢献しています。

近年では、持続可能な社会の実現にいっそう貢献するため、ISO26000（※）を活用した取り組みを推進しています。

さらに、ロッテが取り組むべき重要課題（マテリアリティ）を2018年3月に抽出・整理しました。今後はそれぞれについて目標を定め、実現に向けて取り組んでいきます。

また、刻々と変化する社会課題に対応するため、SDGs（※※）をはじめとする国際的なイニシアチブを踏まえ、ステークホルダーの皆様と対話・協働していきます。

※ ISO26000：ISO(国際標準化機構)が2010年11月に発行した、社会的責任に関する国際規格。

※※ SDGs (エスディーゼーズ)：持続可能な開発目標。2015年9月の国連総会で採択された、17のゴールと169のターゲットからなる国際目標。2030年までに持続可能な世界を実現することを目指す。

重要課題（マテリアリティ）

ロッテは、サステナビリティ活動で今後取り組むべき課題を明確にするため、自社の重要課題（マテリアリティ）の抽出・整理を2018年3月までに行いました。これにあたっては、ISO26000の7つの中核主題をもとに、部門横断のグループワークを複数回実施。議論を重ねることで課題を抽出し、それらの課題が事業活動に及ぼす影響を検討しました。また、外部の有識者にもご意見をいただき、社会に及ぼす影響を踏まえた結果、事業活動を通じて取り組むべきテーマを、「食の安全・安心」「食と健康」「環境」「持続可能な調達」「従業員の能力発揮」の5つに整理しました。



部門横断のグループワークを複数回実施

マテリアリティマップ



重要課題（マテリアリティ）抽出・整理のプロセス

STEP1：課題の把握

各部署で課題をリストアップ

STEP2：重要課題の抽出

リストをもとにして主要なテーマごとにグループディスカッションを実施し、事業活動における重要性を討議

STEP3：有識者とのダイアログ

外部有識者から、幅広い観点で「ロッテが重視すべき取り組み」について意見交換

STEP4：重要課題の整理

上記のディスカッション、ダイアログをもとに重要課題を整理

今後：中長期目標とアクションプランの策定

重要課題に対し中長期目標と、その実現のためのアクションプランを策定

重要課題（マテリアリティ）への取り組みとSDGsとの関わり

食の安全・安心

製品づくりにあたっては、安全・安心で高品質であることはもちろん、「楽しさ」「おいしさ」「やすらぎ」の付加価値が感じられることも不可欠であると考えています。それらすべてをロッテの実現すべき"品質"であるとみなし、全従業員で品質の向上に取り組んでいます。

関連するSDGs



食と健康

健康意識の向上や少子高齢化、食生活の多様化といった社会変化を背景に、「おいしい」だけでなく「体にいい」ものを「手軽に」摂りたいというお客様のニーズが高まっています。ロッテは、創業以来培ってきた知見や技術を活かし、身体はもちろん、心の健康にも役立つ製品の研究・開発に注力しています。食における新しい価値で社会課題の解決に貢献するイノベーション——「ロッテノベーション」を積極的に推進しています。

関連するSDGs



環境

地球環境の保全は生命の存続にかかわる最重要課題であり、また私たちのビジネスも、地球環境の恩恵を受けて成り立っています。こうした考えのもと、持続可能な地球環境の実現に貢献することを重大な責任の一つとらえています。なかでも「低炭素社会」と「循環型社会」の実現に向けた貢献を重点課題と位置付け、グループ全体で取り組んでいます。

関連するSDGs



持続可能な調達

高品質な製品・サービスを安定的にお客様にお届けするためには、安全・安心であることはもちろん、環境や社会にも配慮した、持続可能な原材料の調達が重要だと考えています。

これを実現するため、お取引先や業界内外のステークホルダーと連携して、サプライチェーン全体で持続可能な調達活動を推進しています。

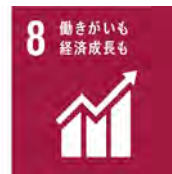
関連するSDGs



従業員の能力発揮

ロッテは、人材こそが事業を支えるもっとも重要な基盤であると考えています。その一人ひとりが持てる力を存分に発揮し、いきいきと活躍できる環境を整えることが、持続的な発展につながります。働く人を取り巻く環境が大きな変化を迎えるなか、よりよい職場環境づくりに取り組んでいます。

関連するSDGs



COLUMN

重要課題（マテリアリティ）特定に向けたダイアログの実施

ロッテは2018年2月、検討中のサステナビリティの重要課題（マテリアリティ）について社外のご意見を伺うべく、有識者2名を招いて各人とダイアログを開催しました。当日は、事前の検討で絞り込まれた5つの分野について、「ロッテが重視すべきことは何か」を中心にお話いただきました。

■参加いただいた外部有識者（50音順）



井出 留美氏

ジャーナリスト
食品ロス問題専門家
第2回食生活ジャーナリスト
大賞（食文化部門）受賞者



浦郷 由季氏

全国消費者団体
連絡会
事務局長

■いただいた主なご意見

Q1. ロッテとはどのような会社だと認識しているか

井出氏：ロングセラーを大切にすることと、新しいものへのチャレンジすることの両方を兼ね備えた、バランスのよい会社だと思っています。

浦郷氏：お菓子をつくる会社であり、その意味で、消費者にとっては身近な会社だと思います。社会貢献においても、親子で楽しく過ごす、あるいは場を盛り上げるといった"お菓子の役割"を通じた貢献に期待しています。

Q2. 「食の安全・安心」分野で重視してほしいこと

井出氏：アレルゲンを商品パッケージで非常に分かりやすく表示していることは評価できますし、こうした取り組みはさらに進めてほしいです。例えばピクトグラムなどを取り入れると、海外の方にも分かりやすいですね。

浦郷氏：食品を購入する消費者が知りたいこととして、農薬や添加物、遺伝子組み換え作物の使用などが挙げられます。これらについて、きちんと基準に基づいて使用すること、そして、しっかりと情報提供することが大切です。

Q3. 「食と健康」分野で重視してほしいこと

浦郷氏：最も期待しているのは消費者教育です。食品をつくる企業ですので、やはり食育には注力してほしいです。さまざまな食材をバランスよく摂取することが一番健康に良いということ、子供に教える一助となってもらえればと思います。

これ以外では、すでにキシリトールガムに関連して、お口の健康というテーマで教育をしていますが、とてもよいテーマだと思います。

Q4. 「環境」分野で重視してほしいこと

井出氏：食品をつくる企業として、フードロスの削減に取り組むべきです。特に、食品リサイクル法で最優先事項とされる「リデュース」に目を向けてほしい。食料の廃棄を半減するというような目標を掲げるのもよいですし、すでに取り組んでいることがあるなら、もっと事例を発信してほしいと思います。

これ以外では、温室効果ガスの排出削減や水の使用量削減が重要なテーマになるのではないのでしょうか。

Q5.「持続可能な調達」分野で重視してほしいこと

浦郷氏：一般の消費者にとっては、原材料やその産地の事はよく見えないのが現状です。産地での環境破壊の回避やフェアトレードの推進など、一つひとつの課題にきちんと対応して、その取り組みを発信してほしいです。

Q6.「従業員の能力発揮」分野で重視してほしいこと

井出氏：健康を謳う企業としては、社員の健康も重視してほしいです。

浦郷氏：女性の力をもっと活用すべきだと思います。男女問わず生き生き働ける職場なら、社員の発想も豊かになり、良いアイデアが出てくるのではないのでしょうか。社内保育所は、その点でとてもよい取り組みだと思います。

Q7.その他、アドバイスなど

井出氏：昨今では特にSDGsを意識されているとうかがいましたが、この17番目の目標には「パートナーシップで目標を達成しよう」とあります。今後はロッテだけでなく、社外と協働して取り組むというアプローチも考えられるのではないのでしょうか。このほかにも、SDGsのどんな目標の達成に貢献できるのかを検討して、経営理念や中長期計画に組み込んでいくべきだと思います。

浦郷氏：社会貢献活動については、もっと情報開示をしていくべきだと思っています。また、消費者が共感しやすい、参加型の社会貢献活動ももっと検討してはいかがでしょうか。

ご意見を受けて

サステナビリティへの取り組みや情報発信をこれまで以上に加速してまいります。

ロッテは現在、自社の事業活動における重要課題（マテリアリティ）を整理し、それらに対して目標の設定を進めています。サステナビリティを企業課題の中心に据えて取り組んでいくという将来像に向けて、ようやくスタートを切ったところです。

ダイアログではそれに先立って、たくさんの宿題を頂戴しました。

ロッテがこれまで行ってきた事業活動や受け継いできた創業の精神に照らしてみると、すでに取り組んでいる事項がある一方で、取り組みが限定的だったり、外部への発信が十分でなかったりした部分があったことを改めて教えていただきました。

今後はいただいたご意見を肝に銘じ、持続可能な地球社会の実現に貢献し、世界中の人々から愛され、信頼される企業となるために、これまで以上にサステナビリティへの取り組みを加速してまいります。



株式会社ロッテ
取締役
経営戦略本部長
坂井 建一郎